

スチューデント・アクション・プロジェクト

「キャンパスから始める環境啓発活動」

- 「いのち」の教育・クラブとのパートナーシップ・地域連携を通して -

第7回 環境啓発シンポジウム

持続可能な循環型キャンパスの創造

- 快適なキャンパスと省資源・省エネルギー -

2007年12月19日(水)13:00□14:30

甲南大学 10号館 1021教室

主 催

甲南大学環境総合研究所

甲南大学文学部人間科学科専門科目「哲学思想基礎論」

甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール

共 催

省エネルギー・省資源推進委員会

協 力

甲南大学学生部・管財部・生活協同組合・関西明装・

神戸エイコーサービス・対馬造園店

プログラム

13:00 挨拶 谷口文章（甲南大学環境総合研究所 所長）

13:10 環境啓発シンポジウム（シンポジスト：1件発表時間5分、コメント1分）

コーディネーター：谷口文章（文学部 教授）

シンポジスト：植村亮介（学生部次長）

『近隣住民との共存・共生について - 学生部に寄せられた苦情 - 』

内山浩志（管財部）

『クールビズ・ウォームビズの取り組みについて』

松原 勤【関西明装（株）】（清掃業者・守衛室 [本校舎]）

『学生のモラルについて』

広野剛史【（株）神戸エイコーサービス】（清掃業者・守衛室 [7号館]）

『建築物環境衛生制度について』

戸田 健【（株）対馬造園店】（造園業者）

『本校地植樹帯内のゴミのポイ捨てについて』

長谷川真一郎（甲南大学生生活協同組合 総務部）

『生協と各組織との関わり』

A：河原田裕基 沢井万里子 畠野舞 南治香

B：鎌田祐也 神崎淳也 木村裕介 得田武史 中川徹 中野真吾 葉杖翔太

C：黒田将広 酒井直人 佐々木慶喜 杉原太郎 野島裕志（哲学思想基礎論 受講生）

『快適なキャンパスの創造』

八木朋美 森彩香（文学部人間科学科 谷口ゼミナール）

『キャンパスから始める環境啓発活動

- 「いのち」の教育・クラブとのパートナーシップ・地域連携を通して - 』

14:10 ディスカッション

14:25 総括 谷口文章

14:30 閉会

《環境啓発シンポジウム・実行委員会組織》

実行委員長：谷口 文章 教授

谷口ゼミナール・学生部・管財部・大学生協・関西明装・神戸エイコーサービス・対馬造園店・哲学思想基礎論受講生

巻 頭 言

第7回環境啓発シンポジウムにあたって

谷 口 文 章

甲南大学文学部教授
甲南大学環境総合研究所長

甲南大学では、2001年から年に一度「環境啓発シンポジウム」を実施してきました。本シンポジウムはスチューデント・アクション・プロジェクトの活動の一環で催され、学内外の部署とのパートナーシップのもとに学生参加型のシンポジウムを展開しています。

本シンポジウムの趣旨は、私たち学生が生活しているキャンパスのよりよい環境づくりを目指しています。近年、地球温暖化の現象が私たちの生活の身近なものとしてあらわれ、大変深刻な状況をむかえています。ある科学的なデータでは、2100年には、最悪の場合5.8℃気温が上昇し、88cm海面が上昇すると予測されています。さらに、南太平洋に位置するツバルという国では、将来海面が上昇し地球温暖化で世界で最初に沈む島といわれています。満潮時には島の地中から海水が湧き出し、農作物にも多大な被害を及ぼし人々の生活をも非常に脅かしています。日々温暖化問題が進行する中、環境に配慮する行動によってCO₂の排出削減がもとめられています。今や国際的にも、もちろん国内においてもますます「低炭素社会」「持続可能な社会」移行への重要性がもとめられています。私たち自身も甲南キャンパスを通じて、今一度、環境問題や私たちのライフスタイルを見つめる場にしたいと考えています。

開催にあたっては、学生部・財務部管財課・大学生協・清掃業者・守衛室・対馬造園店などの皆様にご協力いただいています。これらの部署は、日頃の私たちのキャンパスでの生活環境を整え、サポートしてくれています。各部署のお話を聞くなかで学生の環境啓発の意識を深め、学内のパートナーシップを高めより過ごしやすいキャンパスへの質的な向上が高められるよう期待しています。

これまでに、下記のテーマのもとで議論を深め、交流してきました。

- 第一回「循環型コミュニティの創造とパートナーシップ - 甲南大学におけるゴミの4分別化をめぐる - 」
- 第二回「持続可能な循環型コミュニティの創造 - ゴミの4分別化・緑化・施設の利用マナーをめぐる - 」
- 第三回「持続可能な循環型コミュニティの創造 - 甲南大学における環境とマナーをめぐる - 」
- 第四回「環境創造活動と環境教育の推進 - 省エネルギー・省資源の推進とともに物を大切にすること - 」
- 第五回「持続可能な循環型社会の創造 - 省エネルギー・学生のマナー・環境創造活動の視点から - 」
- 第六回「持続可能な循環型社会の創造 - 甲南人の環境意識の向上を通じて - 」

これらの積み重ねを踏まえた上で、今回の企画では、大学生活の主役である学生の皆さんが改めて自分のキャンパスを見渡し、大学を普段から支えてくれている職員の思いに改めて“気づく”ことから始めて、次の段階には自ら環境のために“行動できる”ように繋げていくことが期待されます。

大学学生部・財務部管財課・大学生協同組合・清掃業者・守衛室・対馬造園をはじめとする諸機関に御協力と御参加を賜りました。心より御礼を申し上げます。

近隣住民との共存・共生について

—学生部に寄せられた苦情—

植村 亮介【学生部次長】

1. 学則と学生心得（規程）

甲南大学学則

第1条 本大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、學術の中心として、専門的な知識と技能を授け、その応用と研究の能力を養うことを目的とし、高い教養と優れた健康とを併せそなえ、社会の発展と福祉の増進に寄与する独創的で実践力に富む人材の育成を使命とする。

学生心得（抜粋）

1. 学生証及び在学確認証の携帯
2. 学生証及び在学確認証の返納
3. 学生証及び在学確認証の再交付
4. 学生累加記録（入学後速やかに住所氏名等の届出書類）
5. 健康診断（大学が実施する健康診断を受けなければならない。）

2. 甲南大学の学生としてのマナー（ガイダンスや掲示、冊子にて周知）

甲南大学は、住宅街に位置しているため、近隣住民との共存が不可欠なのは言うまでもありません。しかし、最近、学生のマナーについて、苦情が絶えず寄せられ、悪しきレッテルを貼られています。

大学には約1万人の学生が通学しており、一人ひとりがマナーを守らなければ地域と共存することはできません。「これぐらいは大丈夫だろう」という気の緩みがマナー違反となり、近隣住民の信用を失います。

甲南大学の学生という自覚を持ち、以下のマナーを遵守しましょう。

通学のマナー

- 道路いっぱい横に広がって歩くのは止めましょう。
- 通学途中、大きな声を上げると近隣の方の迷惑となります。
- 道路の斜め横断は危険なので止めましょう。

講義室でのマナー

- 講義中の私語は真面目に受講している学生の迷惑です。私語は慎みましょう。
- 講義中の飲食は禁止しています。机にも飲食物を置かないようにしましょう。
- 講義中、携帯電話はマナーモードに切り替え、使用は止めましょう。

喫煙マナー

- 甲南大学は敷地内全面禁煙です。またキャンパス周辺も同様と心掛けてください。
健康増進法第25条により、大学内は受動喫煙を防止する義務があります。大学には未成年者も在学していることもあり、教育機関として禁煙は当然であると考えております。
- 学外でも、タバコのポイ捨て、歩行喫煙は絶対に止めましょう。（タバコは20歳を過ぎてから）
- 全面禁煙の取り組みについては、本学ホームページに掲載されている“[No Smoking Campus](#)”宣言をご覧ください。

ゴミ捨てるのマナー

- ゴミは置き去りにせず、ゴミ箱に捨てましょう。
- 環境問題を考え、ゴミは分別して捨てるようにしましょう。
- リサイクル容器はリサイクルに出しましょう。

自転車・車・バイクに関するマナー

- 自動車・50cc以上のバイクでの通学は禁止しています。
- 自転車・原付バイクでの通学もできる限り自粛し、公共の交通機関を利用してください。
- 大学周辺における自動車の不法駐車は近隣の方の迷惑となりますので絶対にしないでください。
- 六甲アイランド体育施設は原付バイクであっても通学を禁止しています。

3. 近隣から学生部に寄せられた苦情

通学マナーに関する苦情

- 十二間道路の横断の仕方が悪い、信号無視、横断歩道を無視、斜め横断、車を運転する身としては危険である。マナーが悪い等。
- 夜は駅前にたむろし、車が来ても道の真ん中を悠々と歩いている。通学路にガードマンを配して注意する等、世間知らずの学生にマナーも教えたらどうだ。
- 道いっぱい広がって歩いている。通学中に大声で話をしたりするのも迷惑。もっとマナー向上を徹底してもらいたい。
- 何年も前から言っているが、夜中などに第4駐車場で鍵を開けるなどの物音がうるさい。アイドリングの音もうるさい。夜中に酔っ払って車で帰って行くものもいる。駐車場の開閉時間等検討してくれ。また、学生の道路横並び歩行をやめろ。
- 六甲ライナーを乗車中、本学の体育会学生と遭遇したとき、お年寄りや子供に席を譲ろうとしない姿に憤りを感じた。「日頃、身体を鍛えている者ほど、席を譲るなどするのが望ましい」。また、バイクなどの運転が非常に危なく、交通ルールを逸脱した行為が目立つ。スポーツをしている者が何故ルールを守れないのか。
- 駅に向う道路、歩けたものじゃない。おたくの学生はどういう教育をしているのか。駅でも降りてくる人のせいで電車を乗れなかったことがある。警備員を配置しろ。警察に言うから。
- 自転車で2人、徒歩で1人が大学から阪急岡本へ向かい、自転車の2人が蛇行しながら女性に向かって来て非常に危険であった。その2人の学生証を見せるように言ったら、どちらも持ってない。今後このような行為をしたら警察に連絡する。との内容であった。
- 通学途中や帰宅途中の学生が騒ぎうるさすぎる。家に病人おり、癩に障るため病状が悪化する。学生だからという理由では済まされず、モラルがない。責任者に報告しておけ。

喫煙に関する苦情

- 阪急岡本駅周辺住民より学生の歩きタバコの苦情(朝9時ごろの通学園児の顔にタバコが触れる危険性)の電話。
- 宝盛館から宇山眼科に至る貴学生の通学態度は目に余る。いつも宝盛館から宇山眼科に至る道路を道幅一杯に歩き、反対から歩いてくる人はどちらにも避けようがないのに、譲ろうともせず、ぶつかって歩いて更に文句を言うとは何様のつもりか。子供が傍を歩いていても、火のついたタバコを手に持ったまま歩き、子供の顔や服に当たりそうになっても全く平気。
- 朝8:30分頃大学周辺歩道を道いっぱい広がって歩くので小学生がやむを得ず車道を歩いて危険な状態です。広がって歩かないようお願いしたい。くわえタバコで歩き、手持ちタバコで歩いて子どもとすれ違った際に危ないので注意をして欲しい。

- ・岡本駅へ歩く道で甲南大学生が、道すべてを我が物顔で歩き少しも道を譲ろうとしない。タバコを吸いながら歩いたり、携帯電話を使用しながらあるいたりしている。マナーが悪い、教授が一度は道に立ち指導でもしてはどうか、ぶつかりあって怪我でもしたら、本人はもちろん大学も訴えるからそのつもりでいて欲しい。
- ・カウンセリングセンター裏口の溝あたりにタバコの吸殻が目立つので清掃していただきたい。また、ひわいな雑誌が捨てられていた。小学生の通学路でもあり、敷地内なので清掃の強化をお願いする。
- ・岡本駅から南側、道いっぱい広がって歩いており、通勤に迷惑をしている。また、くわえタバコや携帯メールをして歩いておりそんな学生は学問を学ぶこと以前の話であり、退学させたらよい。本当に迷惑しているので何とかして欲しい。
- ・正門から南へお地藏さん前を通り阪急の高架までにタバコのポイ捨てが多い。特に最近めだって多くなっている。甲南フラットあたりまでに3本ほどの電柱があるので、そこにポイ捨て禁止の掲示板をぶら下げてはどうか。
- ・高い建物建てて、電波障害がひどい。学内禁煙にしたことで周辺にポイ捨てが増えた。
- ・阪急北側の小道で歩行喫煙。
- ・「大学が禁煙になったことで休み時間のたびに学生が東門付近で喫煙し、ポイ捨てもひどい！！大学に灰皿を設置して」「火のことなので吸殻がとても心配」「また、とてもうるさくなった」。
- ・学生がたむろし、車庫入れするときも邪魔になる。しかも喫煙がひどく火が危ない。大学として対策を講じる。
- ・教職員風の人が複数人で吸っている。日頃も煙害で窓も開けられない。大学内はきれいに行き届いていて、学外は汚くても良いというのか。
- ・住居のブロック塀にコーヒーの空き缶がよく捨てられている。小学生や中学生は、コーヒーを飲まないのだから甲南大学生である。まちがいない！このようなことをしないようになんとかならないものか。注意してほしい。溝のたばこの吸殻は拾っているようですが、塀の掃除もしてほしい。
- ・学生が講堂の西側道路でタバコを吸っている。学内を禁煙にしているから道路で吸うのだ。大学は何も対応しないのか。警備員も何も役に立たない。ビデオに撮っているのだから、テレビ局に持って行く。
- ・「何度も電話しているが、喫煙に関して何も大学は対応しないのか」「また苦情の電話かというぐらいにしか受け止めていないのか。上の者はどうとらえているのか」「早急に会議で議題にかけて、対応策を考えろ！」
- ・阪急岡本駅への道路で、道中をいっぱい広がりタバコ吸い我が物顔で歩いているので注意したら、にらみ返された。このように非常にけしからん学生が甲南大学生に多くなった。通学路に指導員が早朝に指導をしているのは知っているが、あまり効果はないようだ。一般的に常識のある学生になるよう指導すべきである。
- ・最近また学生の喫煙ひどい。見苦しいので何とかして欲しい。この間は道路に寝転がって喫煙している。自宅前にたむろされるので車出入庫の時、大変危険。大学が禁煙にしたとのことで近隣住民が大変迷惑していることを大学は分かっていないのか。このまま何の対策も講じないなら写真を撮って訴える。また、対策を講じてもらえないのであれば、話が通る人に話をしに行くから合わせろ。
- ・「自宅外壁にタバコの消し柄がある。見に来い。休み時間自宅前にたむろし、喫煙している。ポイ捨てもひどい。
- ・甲南大学の西門近くのアパートにすんでいる者ですが、甲南大学では喫煙に関するマナーに対してどのようにお考えなのでしょうか？聞くところによると全面禁煙になさっているらしいですね。しかし、道路では無法地帯のように道に広がり、生協さんの前ならまだ許せます。しかし、私が住んでいるアパートの目の前、またはあろうことかアパートの敷地の入り口にあるブロックに座り吸い、私が通ろうとしてもどかないといった考えられないことをする始末。どうお考えなのですか？早急に対応をしていただきたいです。対応していただければ、こちら警察に通報するなどのそれなりの対応をとらせていただきます。は

っきりいって頭にきています。

- ・先生に会いに来たとき、学内禁煙にもかかわらず、学内で喫煙し、ポイ捨てしている姿を見てガッカリした。どうにか対処してほしいとのこと。
- ・子供を幼稚園に連れて行く時、阪急岡本駅から学生が歩行喫煙をしており、タバコが目線の高さであり大変危険である。歩道に立っている警備員の方は、なにも注意をしていない。ただ立っただけである。
- ・甲南の学生だと思われるものが、傘をさして、道いっぱいに広がり歩いていて、子供が通れなかった。また、歩きタバコをしている学生が多く、ちょうど子供の顔あたりにタバコが来るので、何とかして欲しい。
- ・西校舎正門前で20人ぐらいが、喫煙し、たむろしている。休み時間になると大勢の学生が喫煙し非常に迷惑を感じている。何度も苦情を伝えたが、何も対応していない。

ゴミ捨てるマナーに関する苦情

- ・5月28日に芦屋川でバーベキューをした甲南大学生が、マンションのゴミ置き場に生ゴミやバーベキューセットを放置した。すぐにアミなどの荒ゴミを引き取りに来てほしい。
- ・阪急のガード北(宇山眼科の北側から十二間道路の間)の道に空き缶やゴミのポイ捨てが目立つ。掃除をしている時にも、平気でゴミを捨てる者がいる。掃除をしていて情けなくなる。何とか注意をして欲しい。
- ・宇山眼科付近の溝にコンビニの袋やおにぎりの袋を溝に捨てる学生を見ております。私も火曜日・金曜日がごみの日であるので、掃除をしておりましたが、最近高血圧がひどくできない。甲南大学で掃除してほしい。

自転車・車・バイクに関するマナーについての苦情

- ・長子公園の周りに路上駐車違反があるとの厳しい指摘。
- ・敷地内に自転車を4・5日程放置している。
- ・どちら宛にメールをすればよいのかわかりませんでした。貴校の学生が通学に乗ってくる自転車に対する苦情です。学校直近はガードマンさんが目を見張らせて道路上に自転車や車を駐車させないようにしているのは知っていますが、最近学校から少し離れた場所に自転車や車を駐車して学校まで歩いてゆく姿を見受けます。その自転車をよく置く場所とは岡本4丁目9番岡本センチュリーマンション・岡本4丁目6番エーステート岡本の北側東西道路上です。その学生たちに対し厳しく指導警告を願います。また原付で定員外乗車や一方通行逆行もよく見ます、いったい今の甲南大学生はどうなっているのだろう、こんな社会のルールを守れない子がこの大学を卒業して平然と一社会人になってゆくのだろうか……。岡本駅から南側、道いっぱい拡がって歩いており、車の進行に危険な状況である。また、十二間道路幼稚園の信号を女子学生が信号無視をしてわたっている。また、耳にはヘッドホンをつけて歩いているので警鐘のクラクションを鳴らしても聞こえない。危険であるので、何とかマナーをよくして欲しい。
- ・駐輪場にバイクが止まっている。以前も止まっていた。「関学などでは警備員を配置してるぞ」。また大学前の東西の道において、歩道を歩かず、車道を歩いている。大学では何を教えているのだ。
- ・バイクが無断で置かれている。
- ・岡本2丁目の路上で4～5台の車がたむろして騒いでいたので静かにしてくれるように頼んだが、15分ほどしても静まらないので再度降りていったら、車の轟音を残して去っていった。テニスサークルとのこと甲南大学生だと言っていた。総勢20人ほどで半数は女子学生。甲南大学の恥だと思うので、厳重に注意して欲しい。
- ・山手幹線から2本北側の東西に延びる少し道幅の広い道路と交差する南北の道路を、バイクで甲南大生がノンストップで走行し、東西方向に走っている車と衝突しそうになっているケースを多く見かけます。東西方向の道路の方が、道幅が広くて優先道路であり、交差点では、南北の道路上に一旦停止の止まれの文字が書かれているにも拘らず、一旦停止をしていません。バイクの免許取得の際に、交通ルールの教習を受けている筈であり、このような安全確認もしない無謀運転を野放しにせず、実態の把握と学生への指導

を徹底するよう、強く要望します。

- ・光明寺横に駐車していた車両が急発進し散歩していた方の横を猛スピードで通過した。甲南大生と思われる。大学として注意してほしい、との訴え。
- ・家の駐車場の前に車が止まっており、車が出せない。どういった指導しているのか。また、健康診断日のため東門から、バイクが飛び出してくる。危なくて仕方がない。
- ・霊法会の前に路上駐車をしている。前々週にも同じところに停めていて、その時は注意したところ、故障していると言いつつその際に車を発進させた。また、学生部が出している注意の紙を破って溝に捨てている。モラルがなさすぎる。退学させる。
- ・北側マンション住民より電話で、体育館より5～6台のバイクで信号無視したのを見て、非常に危険である。とのことであった。
- ・六甲アイランド北グランド前の歩道にバイクが止まっていて、犬の散歩をするときに危ない。
- ・六甲アイランド施設近辺の、フットサル場に無断で車を駐車している学生がいるので注意を促してほしい。路上駐車についても注意して欲しい。
- ・十二間道路にサークルだと思うが、路上駐車をしていたかなり迷惑だ。
- ・学生会館南側に単車が11、12台止まっているので大学側からも注意しておいてほしい。
- ・十二間道路で学生が路上駐車をしていたむろしている。マナーが悪く、うるさいので何とかしてほしい、とご立腹！！
- ・「六甲アイランド体育施設付近に車の路上駐車が目立つ。注意しても聞かないし、静止を求めても振り切った。大学ではどういった教育をしているのか」。

その他

- ・2～3日程まえからマンションの隣部屋の学生が、男子4人と女子2人と集まって騒いで非常に迷惑をうけている。以前にも連絡をしたが、改善がみられないので学生にもっと厳しく注意をして欲しい。
- ・マンションの隣部屋の学生が、学生1人～2人と集まって大声で話をし、非常に迷惑をうけている。
- ・岡本9丁目に住まいするもので大学生協のすぐ近くで暮らしております。すでにご承知だとは思いますが夜になると学生達が大勢で叫び声（何を言ってるのかはわかりません）をあげています。ほぼ毎日です。うちには子供がおりまして、だいたい夜9時頃には寝ますが、学生達が毎夜10時頃騒ぎますので、いつも目を覚ましてしまいます。子供のことを別としても、夜の10時過ぎに大勢で大声を張り上げるのは世間的にも非常識ではないでしょうか？ずっと我慢しておりましたが、毎夜のことですので大学当局のほうで常識的なご指導をしていただくと助かります。
- ・夜(10時以後)にコンコンパネルのようなものをたたいて工作をする音がよく聞こえる。夜は周りが静まりかえっているのに、非常によく聞こえる10時以後はやめるようにすること。
- ・出会いの広場から大きな音がしている、とても耐えられた音ではないのでなんとかしてほしい。
- ・学館2階の南ベランダにブルーシートを干してある。また、お酒のケースが積み上げられていて見苦しいので、他の場所に移してほしい。
- ・文化部室南側の一般道路で定期的に午後3時～午後5時頃酒盛りが行なわれている。
- ・先日、女子学生がバイクでひき逃げされ、救助に幼稚園園児を送ってきた母親が介護してくれたことを知っているか。本当に迷惑である。自治会でも話し合いをしてマスコミに訴えること考えている。最近、交通誘導をしなくなっているが、4月の交通誘導だけで効果があったと考えているのか。
- ・甲友会館の南側で学生が音楽をかけてうるさくしている。注意してほしい。
- ・大学が一般道に出している赤のコーンに犬が小便をかけた事に対し、大学の人から文句を言われた。大学構内に入ろうとしたら、大学の職員風の方に「入らないで」言われた。
- ・学館の南側うるさい。
- ・クラブでの声なので分からないでもないが、もう少しトーンを抑えて欲しい。

- ・ 早朝3：30ごろから朝まで犬がずっと大きな声で鳴いた。息子さんが深夜に犬を連れて散歩に出ると、生協のあたりの階段のところに10人ほどの学生風男女がたむろしていた。一週間前にも同じようなことがあった。
- ・ 子供が幼稚園から帰る道路沿いで、車を止めて大きな声で話している。非常にガラの悪い態度で、たむろしている。なんとかならないものか。
- ・ 夜9：30～10：30頃学生が騒いでうるさい。どんな教育しているのか。今度あったら怒鳴りに行く。
- ・ 一泊二日で甲南大学のサークルの50名ほどが宿泊したが、10時に閉館し消灯したのに、明け方の4時ごろまで宴会場で騒いでいた。部屋に戻るように注意したら、1名が食って掛かって来た。未成年者も含むであろうに飲酒もしていた。あまりにもマナーが悪いので驚いている。嚴重に注意してほしい。
- ・ 甲友会館南側の作業場から学祭準備している学生の声がうるさい。(扉が開いているので)夜になっても大変うるさいので何とかして欲しい。
- ・ 十二間道路沿いに住んでいるが、そちらの学生が16：00ごろから17：00ごろまで、車7台ぐらいを駐車して大きな声を出したむろしている。あれは非常にみにくい状態である。なんとか対応しなさい、できないのであれば警察に届けるか、そちらの学長に申し出る。また、教授でも注意に十二間道路に立ちなさい。
- ・ 八木商店で学生らしき者が酒盛りしている。道路交通法違反だ。
- ・ 5階建てマンションにすんでいる甲南大学の学生が6月14日19:00～翌朝5時まで大きな声を出しさわいでいた。甲南大学生であることは、間違いない。多くの人が集まって騒ぐのは、やめてほしい。
- ・ 国道2号線沿い(本山南町付近)のマンション住人が、夜になっても騒いでいて、非常にうるさい。おそらく甲南大学の学生だと思われるので、注意して欲しい。

以上

クールビズ・ウォームビズ の取り組みについて

2007年12月19日(水)

第7回環境啓発シンポジウム

管財部

クールビズ・ウォームビズとは

- 過剰にエアコンに頼らず、夏場は28℃・冬場は20℃設定の中でも、快適に過ごすための服装・工夫を行う取り組みのこと。
- 「ビズ」とはビジネスを指し、官公庁や事業所が想定されるが、省エネ取組みの一環として一般家庭にも励行されています。
- 本学においては一昨年来、事務室を中心に導入しています。

クールビズ・ウォームビズの効果

□ 冷房運転時

外気温31℃の時、エアコン(一般家庭用)の設定
温度を27℃から28℃にした場合

(1日あたり9時間の使用と仮定すると…)

年間節電効果 30.24kwh(約670円)

二酸化炭素削減量 12.4kg

原油換算 7.62L

全国のオフィスビルで室温28℃設定とすると原油約33万kL
(ドラム缶164万本)の削減が可能と試算されています。

(出典(財)省エネルギーセンター)

クールビズ・ウォームビズの効果2

□ 暖房運転時

外気温6℃の時、エアコン(一般家庭用)の設定温
度を21℃から20℃にした場合

(1日あたり9時間の使用と仮定すると…)

年間節電効果 53.08kwh(約1,170円)

二酸化炭素削減量 21.8kg

原油換算 13.38L

全国のオフィスビルで室温20℃設定とすると原油約39万kL
(ドラム缶約197万本)の削減が可能と試算されています。

(出典(財)省エネルギーセンター)

甲南大学における取組み(2007年度)

□ クールビズ

基準室温 講義室 26

事務室 28

期 間 6月1日から9月30日まで

□ ウォームビズ

基準室温 講義室 20

事務室 19

期 間 12月1日から3月31日まで

今後の課題

- クールビズ・ウォームビズについては官公庁が率先して取り組んでおり、またメディア等によく耳にすることもあるためか、比較的認知度の高い省エネ取組みといえます。
- これに限らず、省エネ活動の推進普及のためには甲南大学関係者における省エネ意識調査、省エネ実施状況の認知度調査を行うなど、大学全体で取り組まなければならないということをアピールし、継続して実施していく必要があります。
- 皆さんは大学でどのような取組みを実施しているかご存知ですか？

省エネ取組みの一例

- 照明器具の省エネ化更新
- 人感センサー式照明の導入
- 太陽光発電装置
- 窓ガラスフィルム(講義室直射日光対策)の導入
- エレベータの停止階制限(2階には停まらない)
- エレベータの長期休業期間中運転台数削減
- 自動水洗装置及び節水弁の取付
- 可燃ごみ(紙ごみ)のリサイクル処理

…など

省エネ活動にご協力お願いします

- 省エネのみならず、環境美化に対する意識も持って、大学全体の力を合わせて、より美しく、環境負荷の少ない甲南大学を目指しましょう。

管財部

学生のモラルについて

松原 勤【関西明装】（清掃業者・守衛室）

<施設利用マナーの現状> ~ 5号館ゼミ室（9～11月の3ヶ月 抜粋）

9 / 28	5 4 0 3	ゼミ室内PC紛失
10 / 10	5 4 1 7	ゼミ室内PCコード引抜
10 / 15	5 5 1 4	ゼミ室内床面への吸殻放置
11 / 7	5 5 1 4	”
11 / 9	5 4 1 2	ゼミ室内壁面陥没
11 / 19	5 4 1 5	グループ学習室備品落書き

・吸殻や飲食物の放置、また未消灯・未施錠は相変わらず日常的に散見されますが、近年特に上記事例のような、ルール以前の「モラル」の低下を感じます。

備品が壊されたり、紛失する、落書き、また吸殻もわざわざ床に踏みつけて消す、など「大学」では考えられないことです。

もちろん、ごく一部の学生ではあるのですが、こういったモラルの低下は今回事例を示したゼミ室以外でも顕著です。

特に 学生会館エリアでのゴミ放置・喫煙

5号館パンセ前での ”

通学路や敷地周辺でのタバコのポイ捨てが目立ちます。

中でも については、正門や西門での立哨者や清掃員が一日に拾う数は約400～500本にのぼり、よく外来のお客様も「全面禁煙にしてはきたないですね。」と言って帰られます。

< 5号館ゼミ室 施設利用マナーの現状 >



< PC 紛失（コード切断） >



< 吸殻放置 >



< 吸殻放置 (床面) >



< 吸殻放置 (床面) >



< 壁面陥没 >



< 備品落書き >

< 取り組み > ~ まず「無関心」をやめよう

- ・ご存知の方もいらっしゃると思いますが、警備業務では本年4月から新たに正門前で8～17時まで1名が立哨業務を行っています。

この立哨業務は不審者等の侵入を防止することが主な目的ではありますが、正門付近でのタバコのポイ捨て注意とともに、一日に3～4回程度、正門前～地蔵前・妙法寺前にかけての吸殻拾いを行っています。

4月当初からするとポイ捨ての人数・本数とも徐々にではありますが減少してきています。

ルール作りとともに大切なのは、まずは「自分一人位いいだろう」という考えをなくすこと、そして「仲間のマナー違反について注意する勇気を持つ」ことではないでしょうか。

昨今話題に上っている「地球温暖化」も、法整備や規制(いわゆる「ルール作り」)では立ち行かないところまで進行していますが、先日ノーベル平和賞を受賞したゴア氏(米・前副大統領)の記録映画「不都合な真実」でも謳われている通り、まずは現状を自分の目で正確に知ること。自分のできることを考え、行動すること。それを周りの人に広げること。

環境やマナーの改善には、特効薬はなくこういった地道なことを継続していくしかないのだと思います。

建築物環境衛生制度について

甲南学園サービスセンター
広野 剛史

1.健康の定義

◆WHO(世界保健機関)憲章

健康とは、身体的、精神的および社会的に完全に良好な状態にあることであり、単に病気または病弱ではないということではない。

到達し得る最高基準の健康を享受することは、人種、宗教、政治的信念・経済的ないし社会的地位の如何にかかわらず、何人もが有する基本的権利のうちの一つである。

2. 日本の建築物環境衛生制度制定までの道のり

(1) 明治～昭和初期

・都市人口の増加



住宅問題

・伝染病の伝播



保健衛生問題

(2) 戦後

・高度経済成長期～



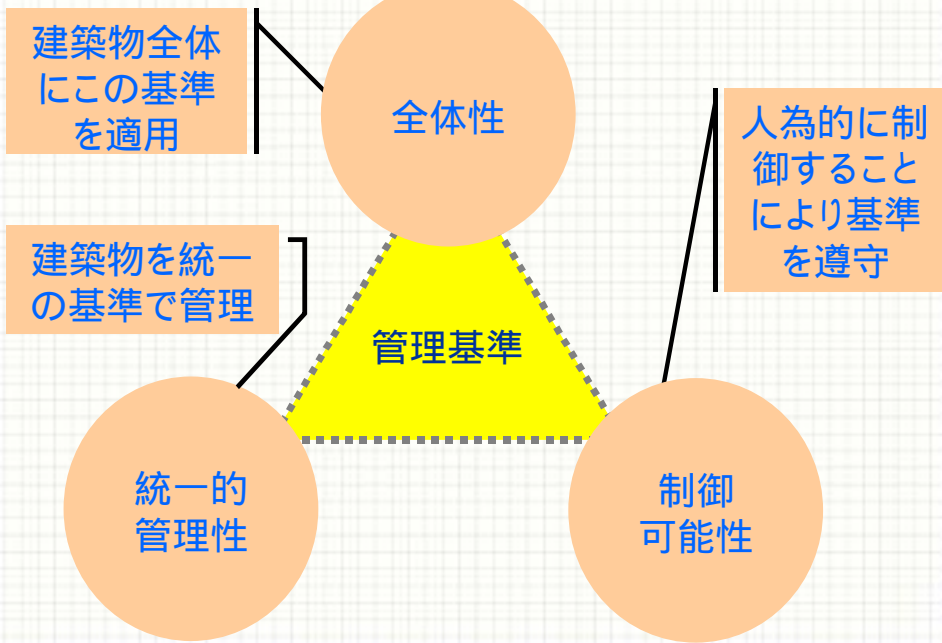
公害問題(経済の発展が人間の身体に影響を及ぼす)

超高層建築物の出現(不特定多数の人間の利用により、公衆衛生上管理が必要)

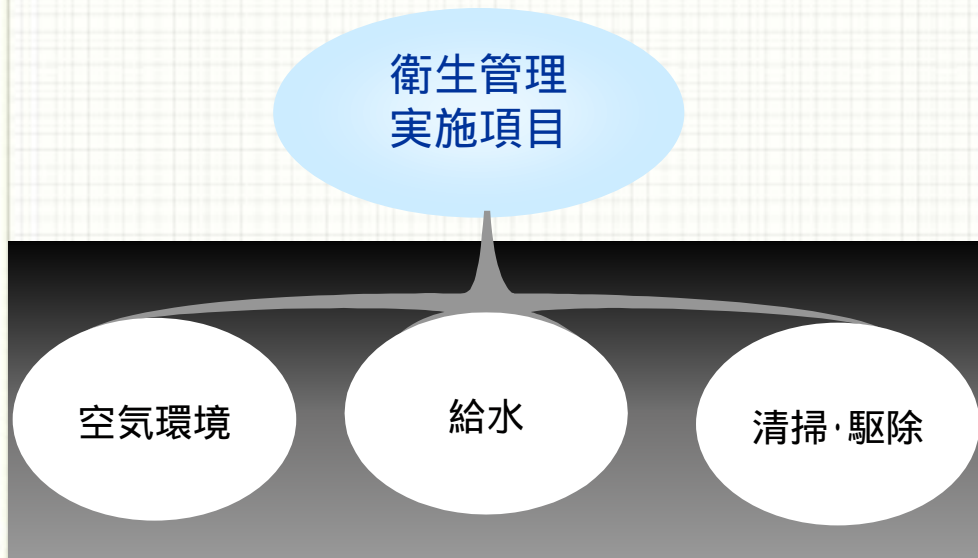


昭和45年 建築物環境衛生管理基準・制度(建築物衛生法)の制定

4. 建築物環境衛生管理基準



5. 建築物環境衛生実施項目



5-1 空気環境実施項目

項目名	管理基準値
浮遊粉塵	0.15mg/? 以下
一酸化炭素の含有率	10ppm以下
二酸化炭素の含有率	1,000ppm以下
温度	17 以上28 以下
相対湿度	40%以上70%以下
気流	0.5m/s以下

5-2 水質検査項目一覧

検査頻度	検査項目	
1週間に1回	遊離残留塩素	
6か月に1回	<ul style="list-style-type: none"> ・一般細菌 ・大腸菌 ・硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 ・塩化物イオン ・有機物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ph値 ・味 ・臭気 ・色度 ・濁度
1年に1回 (6月30日～9月30日)	<ul style="list-style-type: none"> ・シアン化物イオン及び塩化シアン ・クロロ酢酸 ・クロロホルム ・ジクロロ酢酸 ・ジブromクロロメタン ・臭素酸 	<ul style="list-style-type: none"> ・総トリハロメタン ・トリクロロ酢酸 ・ブromジクロロメタン ・ブromホルム ・ホルムアルデヒド

5-3 清掃・駆除項目一覧

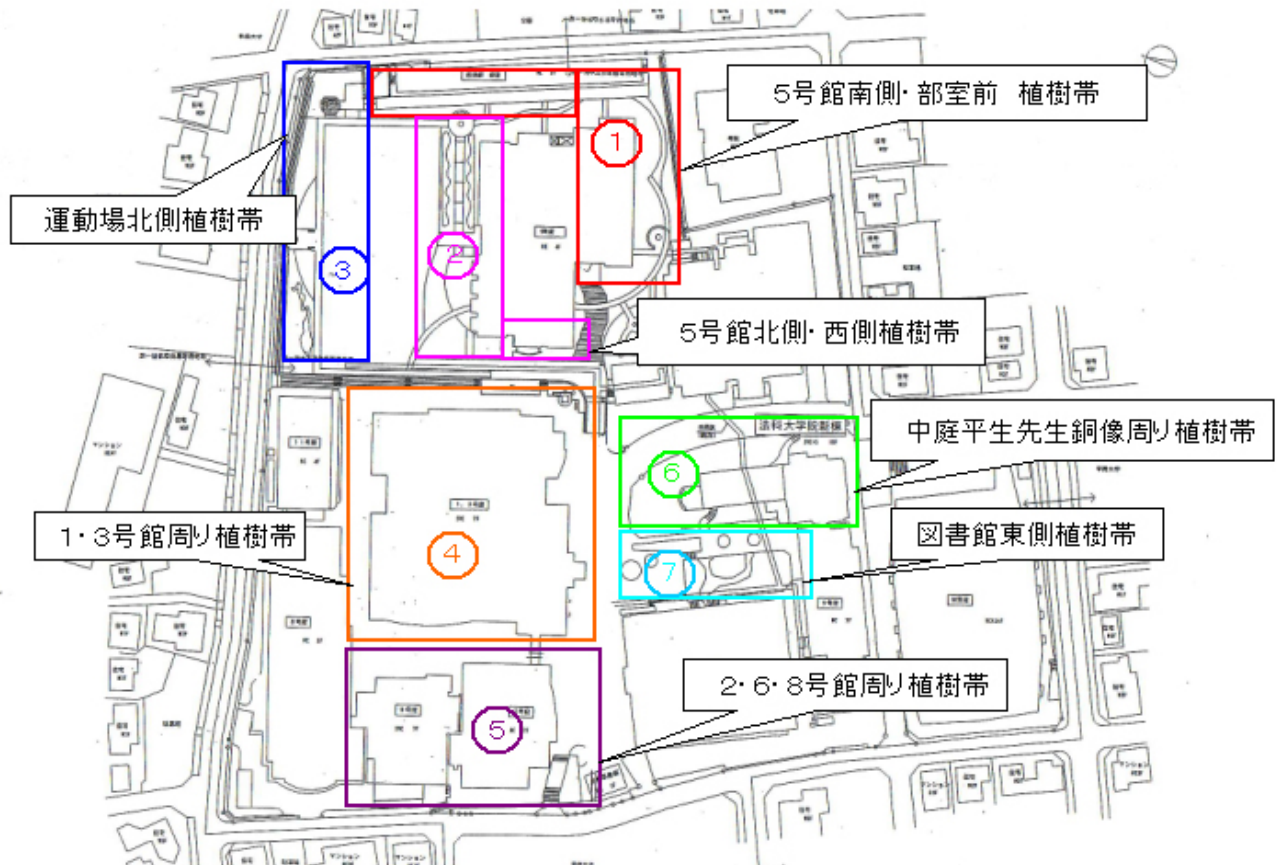
検査項目	作業内容	作業頻度
床清掃	・床洗浄 ・ワックス掛け	6カ月に1回
高所清掃 (ガラス) (照明器具)	・洗浄作業	6カ月に1回
駆除	・トラップ設置 ・煙薰蒸	6カ月に1回

本校地植樹帯内のごみのポイ捨てについて

戸田 健【(株)対馬造園店】(造園業者)

調査場所 1・2・3・5・6・8号館・運動場・図書館東側・中庭各植樹帯

調査日 2007年11月15日 ~ 2007年11月20日



①

5号館 南側・部室前植樹帯

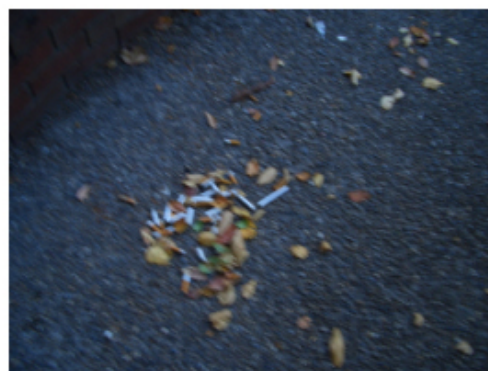


ゴミの種類

コーヒー・ジュース缶、ペットボトル、紙コップ
たばこの空箱、吸い殻、トレイ、ナイロン袋
コピー用紙の包装紙、お菓子の包装紙
ゴミ袋・・・等

②

5号館 西側・東側植樹帯



ゴミの種類

たばこの空箱、吸い殻、
ナイロン袋、お菓子の包装紙・・・等

③ 運動場 北側植樹帯



ゴミの種類
コーヒー・ジュース缶、ペットボトル
たばこの空箱、吸い殻、ナイロン袋
お菓子の包装紙、スーパーの買い物袋
・・・等

④ 1・3号館周り 植樹帯



ゴミの種類
インスタントラーメンの器、トレイ
コーヒー・ジュース缶、ペットボトル
たばこの空箱、吸い殻、ナイロン袋
お菓子の包装紙、スーパーの買い物袋
・・・等

⑤

2・6・8号館周り 植樹帯



ゴミの種類

野球バット、ダンボール、シーパン、プラコップ

コーヒー・ジュース缶、ペットボトル

たばこの空箱、吸い殻、ナイロン袋

お菓子の包装紙、スーパーの買い物袋

・・・等

⑥ 中庭 平生先生銅像周り 植樹帯



ゴミの種類
コーヒー・ジュース缶、ペットボトル
たばこの空箱、吸い殻、ナイロン袋
お菓子の包装紙、スーパーの買い物袋
・・・等

⑦ 図書館 東側植樹帯



ゴミの種類
雨傘、ビニールパック、トレイ
コーヒー・ジュース缶、ペットボトル
たばこの空箱、吸い殻、ナイロン袋
お菓子の包装紙、スーパーの買い物袋
・・・等

生協と各組織との関わり

長谷川 真一郎【甲南大学生生活協同組合 総務部】

毎日のニュースでも周知の通り、地球温暖化を始めとした環境問題への取り組みが叫ばれております。その中で、甲南大学内の各店舗の運営を担っている生活協同組合として、「一人一人の普段の生活から見直すこと」を念頭に置きながら、テイクアウト弁当のリサイクル、使用済み割りばしの分別とリサイクル等の取り組みを行っています。

環境問題への取り組みは一つの組織だけでは無く、広く他の組織と協力関係を築きながら行っていくことが大切だと思います。生協においても学内関係者と常に協力をしながらさまざまな取り組みを行っています。出来ることから始めているのが現状ですが、今回のテーマとなっている「パートナーシップ」の現状について報告致します。

1. 谷口ゼミとのパートナーシップ

環境問題に取り組まれている谷口ゼミとは、学習会に参加させて頂いたり、KEMS の認証取得を始めとしたさまざまなご提案を頂き、一緒に取り組みを行っています。

・ KEMS の取得に向けて

学生会館北館をエリアとして、KEMS の認証を取得するため基礎調査のためのデータの提供ならびに学習会へ参加をさせて頂きました。学習会では、紙ゴミの排出量について数値化する方法などを教えて頂き勉強になりました。今後もゴミの減量化と省エネについて具体策を一緒に検討していきます。

・ 情報パックコラム欄の掲載

生協のホームページを活用し、毎月環境について、さまざまな側面から寄稿をして頂いております。ホームページに掲載することで、広く一般学生への呼びかけを行う場となっています。

・ ミミズコンポスト

正門横のミミズコンポストを寄贈し、またミミズのエサとなる生ゴミを提供しています。(カフェパンセより提供) 生ゴミを堆肥へ変える新しい試みです。

2. 大学祭実施委員会とのパートナーシップ

11月に開催された、摂津祭の中で大学祭実施委員会が行うリサイクル活動を応援し、リサイクル容器の販売と回収された容器のリサイクルセンターへの発送などを担当しています。

3. 大学とのパートナーシップ

食堂などから排出される、ゴミの量などの基礎データの提供並びに六甲アイランドの「空き缶」「空きビン」について、生協の定期便を使い本校への移送などを行っています。本校のゴミステーションに集約することで、ゴミの分別化及びリサイクルがし易くなり、またコスト削減に繋がります。

4. 今後について

これからも、各関係者の皆様の協力を得ながら生協の各店舗で学生生活に根付いた取り組みを行いたいと思います。

例えば、最新のコラム欄でもご紹介頂いた「My 箸運動」は学生のみなさんの意識改革につながり、甲南大学のキャンパス内だけで無く普段の生活にもよりよい影響を与える取り組みだと感じています。周りの人に良い影響を与える活動の一つとして、生協の各店舗とも何かコラボレーションが出来るのではないかと思います。

学生のマナー・学内の陰

河原田裕基、沢井万里子、畠野舞、南治香【哲学思想基礎論】

1. はじめに

近頃学生のマナーが低下していると言われている。我が甲南大学の学生はどうだろうか。確かにキャンパス内は普段綺麗に保たれているように見えるが、少し入り組んだ所や、校舎の裏などに回ってみると普段は見ることのできない学内の一面を垣間見ることが出来る。今回はそんな「学内の陰」に焦点を当て、施設の破損や落書きなどを調査することで、学生たちの環境に対する意識を考えてみようと思う。

2. 現在見られる学内の裏側

まず、普段とは違う視点で捉えた学内の状況を最近撮影された写真を用いて紹介していく。



写真1 . 10号館東入口付近の配水管

強い力によってひしゃげている。この付近でテニスの壁打ちをしていることが原因か。



写真2 . 生協前のゴミ箱

タバコの火の押し付けによって溶けている。



写真3 . 6号館と8号館の間の階段の壁

タバコの灰による落書き。似たようなものが見られる。



写真4 . 10号館1階の机

多くの落書きや刃物による傷跡が見られる。傷は新しいものから古いものまで様々。



写真5 . トレーニングルームの建物1階の壁

壁にスプレーで落書きされている。



写真6．341教室の壁

壁に白と黄色のチョークで「di」と書かれている。



写真7．6号館裏のゴミ捨て場

ゴミが散乱しており、ペンキの後が目立つ。



写真8．ピオトープ

池にナイロンの袋が捨てられ浮かんでいる。



写真9 . グラウンドの苗木

壊れたバドミントンのラケットが引っかかっている。

3 . 私たちの課題

- 自分たちが勉強する際に使用させてもらっている立場だと言う自覚を持つ。
- ゴミが出たら自分たちで正しく処理する。
- 落書きなどはしない。また、落書きをしてしまった場合は自分で消す。
- ゴミのポイ捨てや、施設の破損をしている人を見かけたら、自分には関係ないと思わずに、注意する。
- 普段掃除してくれている方々に対して、当たり前だとは思わずに感謝の気持ちを持つ。
- 講義室や、机の上にゴミを残したままにしない。

まずはこのようなことに個人から取り組んでいこう。

4 . まとめ

実際に自分の家ではこのようなことはしないはずである。だからこそ私たちの第二の家とも言える勉学の場、大学が心無い行為によって壊されたり汚されたりしているのは、とても悲しい。私たちの考えた課題はどれも当たり前のことであるが、その当たり前のことが出来ていないのはなぜだろう。それはやはり学生たちのマナーや環境に対する意識が低下しているからであると思う。集団で染み付いてしまっている行動を変えることは非常に難しいことであるが、1人1人の意識を変えることは今日からでも可能なはずだ。マナーというものは日常生活の積み重ねであり、それにおける些細な気遣いが、より良い学内の環境を作り上げていくのだ。今回の報告を通して自分の行動を見直し、学生のマナー、環境に対する意識が高まれば幸いである。

キャンパスの周辺環境

鎌田祐也 神崎淳也 木村裕介 得田武史 中川徹 中野真吾 葉杖翔太

はじめに

私たちの生活の大部分を過ごす大学。多くの人が集まる大学において数ある課題の中から今回はポイ捨てを軸としたゴミ問題について取り上げてみた。さまざまなゴミ問題の中からポイ捨てを軸として選んだのは、ポイ捨て自体が多発しておりゴミ問題の中の1つのジャンルだけでは収まりきれないくらいの量になっているからであるということと、一番身近であるがゆえ一人一人の少しの気遣いによってポイ捨てが激減すると思われるからである。

そして一人一人の気遣いとはすなわちマナーである。マナーは人が気分よく過ごす上で最も大事であると同時に

に最も基本的なことでもある。個人が過ごす場所ではマナーは守るが、公の場所になるとマナー意識の低下によって他人の気分を害するような光景をよく目にする。ここではキャンパスや通学路などに限定し調査を行った。一見きれいなキャンパスも細かく見ていくと、実にマナーの悪い場所はたくさん存在した。それらを写真に収め、どういった状況であるかを分析し、どのように対策するかを考えていく。しかしいくら解決策を考えたとところで、マナーが向上しない限りは問題そのものが解決しない。最も大切なのはマナーであることを忘れていただきたい。



撮影場所：岡本駅周辺の公園 撮影日時：12月16日
問題点：排水管が詰まる可能性がある。



撮影場所：3号館1階のトイレ
撮影日時：12月16日
問題点：火災報知器がなる可能性がある。



撮影場所：大学前道路
撮影日時：12月18日
問題点：子供やお年寄りにとって歩行の邪魔になる。



撮影場所：学生協のトイレ
撮影日時：12月13日
問題点：読めないので意味がない。



撮影場所：5号館1階のゴミ箱
撮影日時：12月14日
問題点：空き缶の中に異種のもが入っているので、ゴミ処理が行いにくい。

むすびに

このように一見きれいなキャンパス内外もこのように細かく見ていくと、タバコやトイレ、空き缶など後始末に関する問題を見つけることができる。これらの問題をどのようにしたら改善できるであろうか。一人一人の意識を変えなければならぬことは先にも述べたのでいうまでもないが、ここでは具体的な対策を考えてみよう。

まず、空き缶などがポイ捨てされる大きな原因として、近くにゴミ箱が存在しないというのが考えられる。またゴミ箱付近に散乱するのはゴミ箱の口の小ささによると考えられる。この点からゴミ箱に焦点を当ててみると、ゴミ箱の数を増やすことがよいと考えられる。またゴミ箱の口の大きさも大きくしてみてはどうだろうか。ただ、景観との兼ね合いが問題となるので、そういった部分が難しいところである。

次にタバコのポイ捨ての場合を考えてみる。タバコは一般的なゴミと違い、手で触ることはできない。さらに、火がついたままの場合ですらある。甲南大学では、現在「校内完全禁煙」を掲げているので、これにより本来ならばタバコは無くなるはずである。しかし、事実上タバコはポイ捨てされている。そこで全面禁煙は意味を成していないため、分煙をしてみてはどうだろうか。校内の定められた場所に灰皿を設置しタバコが吸える場所を増やす。ただ、喫煙所の数が少なければ意味がなく、多ければ逆に吸わない方の迷惑となるのでそのバランスを考える必要がある。また歩きタバコなどの問題も新たに増える可能性を含んでいる。

最後にトイレ内の問題であるが、これは一人一人の意識の問題でしか解決できないように思われる。究極の方法としては、トイレの清掃の人員を増やすしかない。ただしコストが大きく掛かる上、そうしなければならない

大学というのはなんとも恥ずかしいものだ。やはり一人一人が清潔に使わねばならない。

今回、大学内外の身の回りでの環境を考えてみて感じることは、想像以上にマナーが悪いことである。マナーは今更に取り上げることでないように思うことだが、あえて今取り上げ何度も主張する。当たり前のことを当たり前にする。それが基本的なマナーであり、これが最も大切なことなのである。こういった気持ちを思い出すこと私たちは切に願う。

ゴミ分別とリサイクル

酒井直人 黒田将広 杉原太郎 野島裕志 佐々木慶喜（哲学思想基礎論 受講生）

1. はじめに

私たちのグループは、この何週間か甲南大学の構内を周って見て、様々な環境の問題を探してきました。その中で、私たちが特に気になったのは、学内においてごみの分別がきちんとできているところ（例：図書館前のゴミ箱）できていないところ（例：2号館向かいのゴミ箱）があるということです。そしてリサイクルのデポジット機能などが、あまりうまくいってない（例：パンセ、1号館ラウンジ）という現状もわかってきました。

私たちのグループはこの機会を使って、今の甲南大学の現状を伝えていくとともに、その問題について考えてみようと思いました。

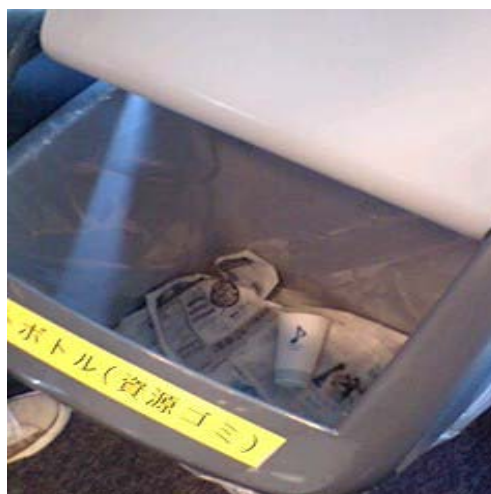
2. ゴミの分別とリサイクルの現状



2号館向かいのゴミ箱



図書館前のゴミ箱



3. 私たちがすべき課題

1. デポジット自体の存在をキャンペーンなどによってアピールする。
2. ゴミを捨てる際に、ゴミ箱の表示を確認してから捨てる。
3. ゴミを捨てる前に、リサイクルできないかどうか考える。

4. まとめ

以上のことから、ゴミの分別をきちんとすることによって、よりよいキャンパスを作り上げられると思われま
す。甲南大学では、業者の方が一生懸命ゴミの分別をしてくださっているのです。私たちも日頃からゴミを分別し
て捨てたり、リサイクルに取り組んだりするべきだと思います。そして、私たちがいつも綺麗な環境の中で過ご
していることを当たり前だと思うのではなく、そこにはたくさんの人々の努力があることを決して忘れてはなり
ません。「私がやらなくても誰かがしてくれる。」という考えは捨て、私たち一人一人がそういった環境問題に対
して意識を高めることで、甲南大学はより輝きを増すでしょう。

キャンパスから始める環境啓発活動

- 「いのち」の環境教育・クラブとのパートナーシップ・地域連携を通して -

八木 朋美・森 彩香【文学部人間科学科 谷口ゼミナール】

主旨・目的

今日、環境問題は年々深刻になってきており、その影響が温暖化や異常気象などの自然現象に顕著に現れるようになってきました。その改善を考えるに当たって、今年度私たち谷口ゼミは環境問題を地球規模で考えることで様々な角度から環境問題を考え、同時に学校・地域単位で活動することが重要であると考えました。体験学習を通じて感じたこと、経験したことを伝えながら、何かしなければと考える人たちを環境活動に容易に取り組みめるようにサポートしていきます。

今年度は、プラン「体験学習を通じた環境活動—『いのち』の環境教育—」では広野でのもち米・野菜作りや自給自足生活の体験学習を通して、いのちの育みを知り、自分たちが苗から育てた野菜を食べることで、いのちの大切さを見直します。プラン「パートナーシップによる環境啓発活動—部活動・学内組織との連携を通じた環境意識の向上—」では、クラブや学内組織との連携や「環境啓発シンポジウム」を通して学内での環境意識の向上に取り組みます。プラン「地域連携による環境活動のネットワーク—KEMS・地域連携プロジェクトを通じて—」では、昨年度に引き続き生協北館において、KEMS認証取得に力を注ぐとともに、「あいな里山国営公園」(国土交通省)での里山村の復興を支援する環境ボランティアを通じて地域との連携を強め、里山文化を伝承し、伝統文化のデータを収集します。加えて、甲南三学園において幼稚園から大学生まで世代を超えた環境教育を行ないます。これらの活動によって環境啓発活動のネットワーク拡大を目指します。

プラン：体験学習を通じた環境活動—『いのち』の環境教育—

(1) 不耕起農法によるもち米作り

米作りは、田植えの準備として4月に田起こし、5月に苗床づくり、もみまき、6月9日(土)に田植え、10月13日(土)に稲刈り、10月27日(土)に脱穀、12月15日(土)に収穫したもち米を餅にして、収穫祭を行ないました。

並行して、3月から田んぼの一部に畦を作って区切り、水を溜め、冬期湛水(冬の時期に田んぼに水を張ること)を始めました。4月下旬、農業用水の使用順により水が使用できなくなり、溜めていた水が干上がるという事態が起きました。その後は、草抜きをしながら様子を見て、5月の田ごしらえからは、伝統的農法と同じように、水をいれ、田植えを行ないました。

(2) 伝統的農法による野菜作り

4月から堆肥・石灰を撒き、トラクターをかけ、畝を立てるなどの土作りを行ない、5月12日(土)に、甲南大学環境教育野外施設の体験学習のフィールドにおいて、夏野菜のナス、キュウリ、トマト、ミニトマト、ピーマン、シシトウ、オクラ、トウモロコシ、サツマイモ、ゴーヤ、枝豆、落花生、カボチャ、小玉スイカを植えました。また、7月7日(土)には、甲南大学の大学生、親和女子大学生、尼崎北高校の高校生、と共に収穫しました。



苗を植える学生(農作業の指導)
(5月12日)



きゅうりの収穫
(7月7日)

(3) 自給自足生活の体験学習

昨年度に引き続き、8月4日(金)から7日(火)まで4日間、甲南大学環境教育野外施設(広野)において、自給自足の体験学習を行ないました。今年度は台風の影響で3日が中止となり、4日から開始となりました。参加人数は述べ10人で4日間を通して自給自足生活を行なった学生は6人でした。

今年度は現代生活から一步離れた生活をする事で現代のライフスタイルを見直すこと、及び前年度以上の衣食住の充実や日常において、足りないものや余分なものを見つけ、みんなで協力して生活することで共同生活における人と人との関わりあいの大切さを感じることを目的としました。

住居は、前年度より参加人数が多かったため、生活スペースの拡大に力を入れました。その結果、10人全員で生活することのできる住居が完成しました。しかし、強度はその分低くなり、今後の課題となりました。

食事は、広野の畑で収穫した野菜と、前年度田んぼで収穫したもち米を用いました。さらに今年度は新たに育てたかぼちゃにより、料理の種類が前年度より増えました。さらに、かぼちゃの種を炒って、塩をまぶし、おやつにしたりして、一つの食材の調理法を変えることで無駄なく利用しました。

さらに今年度は、前年度虫に悩まされたので虫除けになるハーブのレモングラスを4月から育て、蒸留酒と混ぜた手作りの虫除けスプレーを作りました。その結果、蚊に刺される量は激減しました。さらに、残ったレモングラスをハーブティとしても使用しました。また、薪の使用を最小限に抑えるために竹から炭を作ったり、竹で各々好きな楽器を作ったりして、自然にあるものを材料や道具として加工し、利用できるようにしました。

今年度は前年度よりも気温が高く、そのような炎天下の中でも、ご飯を作り、寝る場所を作らないと生活ができません。普段当たり前にあることを自覚することで、ライフスタイルを見直すことができました。また集団生活を体験することで、お互いを思いやる気持ちが不可欠であると学びました。



竹と藁で作った住居



畑で収穫した野菜で作った料理

プラン : パートナーシップによる環境啓発活動

—クラブ・学内組織との連携を通じた環境意識の向上—

(1) クラブと連携して行なう環境啓発活動

6月15日(金)に茶華道料理部道心会(以下、茶華道)と共に10号館横の花壇に花の苗を植えました。花壇には、種から育てたおもしろい花、日々草の苗と、ひまわり、サルビア等の種を植えました。茶華道の部員は、「いつも何も気にせず生けている花を育てるのがどんなに大変か初めて知った」という感想を述べていました。また私達ゼミ生もただ花を植えるだけでなく、花を魅せるという要素も教えてもらいました。これからも茶華道の部員と共に花壇の世話をしていく予定です。

6月25日(月)にKSWLと共に、環境についての学内放送を行ないました。内容については身近なことから始める環境活動についてお互いの考えを話し合い、それを放送してもらいました。これにより、様々な環境活動を甲南人に伝える事ができ、さらにKSWLの部員の方たちから様々な意見を聞くことができました。その意見を今後のゼミ活動に活かしていき、これからの環境活動を更に発展させていきたいと考えています。



茶華道料理部道心会との花壇作り
(6月15日)



KSWL との校内放送作り
(6月25日)

(2) 学内組織とのパートナーシップによる環境啓動

1. 第7回「環境啓発シンポジウム」の開催

甲南大学環境総合研究所主催「環境啓発シンポジウム」における7つの組織【学生部、管財部、生活協同組合、関西明装(株)警備部(株)神戸エイコーサービス、(株)対馬造園店、谷口ゼミ】と学生とのネットワーク構築のサポートします。7つの組織それぞれの立場からの現状を報告し、それを学生が把握する事で、甲南大学の学生自身が環境問題を考え、改善するために行動を起こすきっかけになると同時に、学生とのネットワークの強化に繋がると考えています。

2. 学内組織との花壇作り

11月30日(金)に(株)対馬造園店の協力の下、文学部事務員の人達と共に、ピオトープ周辺にパンジー、ピオラの苗を植えました。花の苗の植え方や樹木の手入れの仕方について共に学びました。

プラン : 地域連携による環境活動のネットワーク

— KEMS・地域連携プロジェクトを通じて —

(1) 環境啓発へとつなげるKEMS認証取得を目指して

4月から毎月生協北館の高熱費や水道代を記録し、環境負荷の実態を資料にまとめています。5月には北館職員的环境意識をアンケートで調査しました。また、一番排出量の多い紙ごみのリサイクルを促すため、コピー機の横にミスコピー用紙のサイズ別回収ボックスを設置し、横にリサイクルを推進するポスターを貼りました。これらの活動から北館の職員と甲南人の環境意識の向上ができればと考えています。

(2) 「あいな里山国営公園」(国土交通省)における環境教育ボランティア

6月16日(土)に「あいな里山国営公園」(神戸市北区)で活動を行なっている「あいなバイオパーク」の田植えに参加しました。昨年度はイノシシの食い荒らしによって稲刈りや脱穀ができなかったが、今年度はイノシシの被害はありませんでした。10月14日(日)に稲刈りを行ない、11月3日(土)に脱穀を行ないました。



あいな里山公園での田植え
(6月16日)



あいな里山公園での稲刈り
(10月14日)

(3) 甲南三学園における幼・小・中・高・大学間の環境教育サポート

1. 甲南三学園環境教育プロジェクト(米作り)

私たちは2001年度以来今年度も甲南幼稚園児から大学生とともに、広野での田植え、稲刈り、脱穀、もちつきなどの米作り活動、及び住吉川環境学習を一緒に行なっています。

6月9日(土)には田植えを行ない、甲南小学校、甲南中・高等学校、甲南女子中・高等学校の学生に大学生が指導し、環境教育のサポートを行ないました。今回、当初天候が悪く、田植えが出来ない状況だったため、その間屋内で竹細工やネイチャーゲームなどを実施し、天候の回復を待ちました。その後天候が回復し、全員で田植えを行ないました。生徒は初めての田植えを経験し、また蛙やあめんぼなどと触れ合ういい経験になりました。また、米作りは天候と深く関係しているということも改めて実感しました。

10月13日(土)には、甲南女子中・高等学校の学生とともに稲刈りを行ない、10月27日(土)には甲南小学校の生徒とともに脱穀を行ないました。2008年2月3日(日)には甲南幼稚園、甲南小学校、甲南中・高等学校、甲南女子中・高等学校と共に餅つきを行なう予定です。



田植えをする甲南小学生
(6月9日)



稲木に稲をかける甲南女子高生
(10月13日)

2. 甲南三学園環境教育プロジェクト(住吉川の環境学習)

2007年9月22日(土)には今年で8回目となる「住吉川の環境学習」を甲南小学校・住吉川において行ないました。甲南小学校4年生60名、甲南中高生25名、甲南女子高校生38名、教職員16名、甲南大学生15名が参加しました。まず参加者全員でクリーン作戦として住吉川のゴミ拾いを行なった後、「生き物調べ班」、「自然を詠む・描く班」、「水質調査班」、「ゴミ調べ班」の4班に分かれて作業を行ないました。

環境学習に参加した小学生達は花や魚などの生き物を近くで見ることができ、良い経験となりました。また、携帯電話などの大きいゴミなどが捨てられており、なぜ捨てるのかなど話すことで、環境について考える良いきっかけとなりました。以上のような活動を各班で行なった後、講堂において各班の発表が行なわれました。

この環境学習を通して、指導することの難しさや自分たちと子供たちの環境に対する視点の違いを学びました。また、住吉川のような身近な場所の環境について考える事から、少しずつ視野をひろげてゆき、これからの環境活動につなげていきたいと考えました。

編 集 甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール
協 力 管財部
発 行 甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室気付
TEL/FAX : 078-435-2368 (直通) E-mail : fumiaki@konan-u.ac.jp
印 刷 管財部
発行日 2007年12月19日(水)
